

一人の英雄を待ち望むのではなく

今こそわれわれ一人々々が

画三経と記二種

國の井田は、勞役を以て賦役を充てしものなり。其の後、

難題で述べられたよりの結果、S.46年3月からの備北を中心とする共同体運動は、S.47年5月6日、連休キャンフをもと日ほど残したまま「終り」を告げなければならなくなつた。それを今われわれはかりに第一次備北共同体運動」と呼び、今後続けられるであろう(オニタ×オ三次共同体運動)が確實にさうに發展したものになるよう、(オ一次共同体運動)をこの時点で精一格、篤苦しておかねばならない。

今までの共同運動のはらんでき
た問題点について全般的に次のよ
うに指摘することがでざる。

うに指摘する」とかでさう。
一、そもそも共同体とは何かという
原理的な把み方が十分になされなか
った。共同体は過去の社会、經
済的な土台の上に根ざし、未來
においてそのような位置をもつて
あらうかという巨観的な展望が十
分になかった。この点では、知識
人の共同体論もほんとうに専心療法
の専門家せんでしかなり。私たちは
まず自分の力で実験し、討論を重

平等の前提と現実の力の差違

共同体を語る時、その前提に全

手段是目的。

を考えてみよう。

現実の力の差違

共同体を語る時、その前提に乍等である。この認識これでなければならぬ。しかし、人間の能力・体力・知恵、さらには共同体に入る前の財力などが最初から均一であるはずがない。いわゆる通常の社会では、これらの力の差違が階級・身分を創り出した悪の根源であるのだが、はたして共同体ではこれらがいかに処理されるかどうのが大きな課題としてある。「能力に応じて働き、必要な応じてどる」というのは共同体の理想であり、共同体を創出しようとしている現在のわれわれの原則でもあるのだが、いかにしてそれが実現できるのか、オーナー偏北共同体運動の困難さは、このもともと基本的でしかもしもとも重要な設立の前で足りました。すなわち、偏北の出発が土地に関する事は当初個人の所有地であり（これは實じます）

手段は目的を内包する

牧歌的にユートピアを語ってい一致しためのように思ひ込んでいたしむにそれは一致してくる。たしかに多くのものは一致しためのようにならねばならない。しかし、今、われわれが偏北を前にして共同体を語る時、ゴール（理想）とともに、否それ以上にマロセス（過程）が重視して語られねばならない。そして当然そなうの観者に食い違ひがあつてはならぬ。目的は手段を：」はロシア革命を實際に乗りこなしたレーニンの発想であるが、われわれは二

「農業」ととも語られた。いわゆる「農業化」の運動があつての農業」との二つに大別できるが、今の所、そのどちらもが十分に理論化されていない。いはしばしば「共同体」という観点が入りてしまい、またその具体的戦術が不明瞭のまゝ、そのエネルギーが体制に絡みとられてしまつてしまつとしても戦術として農業を運んだとしても、そこを射つことによつて真に体制(現代社会)を射とめられるかどうかの理論化および展望が薄弱だった。われわれの志向が共同体運動であることに変りがないが、まさ具体的に設置したロジエクトが農業共同体である限り、現代の農業問題、農業政策に対する学習を徹底し、そこで自分たちが十分に聞い得るかということを今一度深く考え直さねばならぬ。そこで初めて、現代社会に対置し得るトータルな共同体の像が射程にはいってくるのである。

百人委鬼想の
実質ためざ運動

共同体運動を關係革命といつ言葉で表わしてきた。現在、備北の地、一人の仲間と離れてやることになった。それは關係革命の破産なのだが、否、断じて否である。同じ考この下に一緒にやってやるのだ。が關係革命ではない。緯北の地と離れた仲間との關係は今後も続くだらう。むしろこれからが本当の關係革命期であると言わねばならない。今までの、ともすれば特定個人の事実のみが問題化され、他の個人の事実をもかどんぶつけ合ひが不充分であつたことを譲虛に反省しなければならぬ。そして、それぞれがそれぞれのやり方で創造した「事実」をつき合わせるによつて、その「事実を媒介」にして、新たな關係、ヨリの道、別の「事実」の創出が可能になつてくる。それが、その關係革命だ

し、オニ次共同体運動期にはそこまで進まねば進歩したと言えないだろう。また、特定の個人の問題を個人的な問題としてきりすててしまうのではなく、「個と集團」の問題に普遍化する作業もおこなってはなうなり。

今、われわれが置かれている位置は明白である。さきづき思い出を残して帰北を去ることになった。しかし、オニ次共同体運動はその時点からすでに始っている。中国山地のどこのかで、あるいは都会の片隅で次の共同体の産声が上げろとしている。帰北を去るといふことで、われわれの運動——貢人委の思想が破れたということにはならぬ。オニ次共同体運動を貢負ト始めて、いわわれにはへ百人委の思想の大變化トヒトト大きな課題がある。いよいよ、これがらその中身をためしていく運動をはじめなのだ。へ百人委の思想の実質化トこそ、今、この時点を言えヌ第一次帰北共同体運動が残した

最大かつ唯一の課題である。



いわゆる

たって、やゝと備北だより山を
読んでいただけのようになります
た。「寝耳に水」と驚かれた方も多く
と思います。このたよりだけでは
不充分だと思います。どうぞ、ひ
しげし、あなたがうのおたより下
さい。

*一度は放心状態になりました。
でも、それをどうするか。數々と
して 次に すすめそうです。
芳。